

TISF2021 参加体験記

Taiwan International Science Fair (TISF) 2021

- 開催日 2021年2月1日～5日 オンライン開催
- 学校名 学校法人福島成蹊学園 福島成蹊高等学校
- 参加者 根本佳祐
- 指導教員 山本剛、Lilian E.C.Yoneda
- 発表課題 Considering Fukushima's contaminated water treatment system using algae
～ To protect the oceans from radioactive emissions



●参加推薦校の募集に応募！

私は無事に大学進路も決まり、もう少しで冬休みへと入る12月にTISF2021への参加のチャンスがあることを知りました。昨年度に先輩方と参加をし、2等賞を頂いたこの大会は自分にとっても貴重な体験になり、チャンスがあると知ってぜひ参加したいと考えました。また、先生方から、「高校生活の最後に、一人でこの大会に挑戦をして、大学へ進学してはどうか？」と後押しを頂きました。参加を決めてからは、締め切りのギリギリまで何度も申請書を書き直し、先生や昨年度に卒業した先輩にも相談を受けていただきました。アドバイスして頂いた先生方、先輩、後輩にはとても感謝をしています。



フィールド活動の様子

●本番まで練習に励む

まず初めに、自分の中で何を話すのか、どの部分が重要なのかを理解していなければ英語での発表でも相手に内容を伝えることが出来ないと考え、日本語でのスライド作成と発表練習を行いました。その後、1月からは本格的に英語での練習が始まりました。先生に英語の発音を訂正してもらったり、携帯で単語を検索して聞いたりして繰り返し練習を行いました。

また、昨年は3人で参加をしたのですが、今年は質疑の準備や事前の概要の資料の作成も1人で行った為、昨年以上に限られた時間の中で作業を行うことが大変でした。加えて、抑揚のつけ方もとても苦労をしました。今話している英語がどんな意味かを理解していないと抑揚はつけられない為、とにかく何度も何度もスライドと原稿を見て、口に出して練習をしました。しかし、抑揚を意識しすぎると発表時間が長くなってしまったり、逆に話すことだけに集中してしまうと時間が短くなったりなど、中々自分の思うように発表を行うことが出来ず、本番当日の発表直前まで練習を重ねました。

●ついにサイエンスフェアへ参加！

今回は、オンライン大会というということもあり、参加をしたのは2月2日の開会式と2月3日の研究発表、2月5日の閉会式の三日間でした。

【2月2日】

この日はTISF2021の開会式の日でした。昨年度は各国の選手が開会式の会場に集まり、選手紹介などが行われていたのですが、今年はそれらが行われず、画面から見える会場の様子は人が少なく少し寂しく感じました。しかし、ライブ配信のチャット欄では各国の選手がお互いに挨拶しており、とても活気がありました。大会のあいさつなどでは台湾の政府の方からのお言葉もあり、改めて台湾が研究などを通して教育に力を入れていることを感じました。

【2月3日】

この日はついに研究発表の日でした。昨年度はポスター発表で、何度か審査員への発表があり、最初は緊張をしていますが段々と慣れてくるのですが、今年はオンラインでの発表のため、審査員への発表は一度しか行われず、質疑応答など



オンラインでの活動の様子

で満身に答えられずに悔しい思いをしました。

私は、参加した環境工程科部門の中でも1番目の発表で、時間になると個別グループに移動し、2人の審査員へ向けて発表を行います。発表中はとにかく今までの練習を信じて行き、自分の福島の汚染水問題を解決したいという思いを伝えました。発表後の質疑応答では、3問の質問を英語でされました1問目の吸着と吸収は何が違うのかという質問には落ち着いて聞き、しっかりと答えることが出来ました。

【2月5日】

この日は閉会式の日でした。初めに台湾のガラスを使った幻想的なパフォーマンスが行われ、開会式とは違った落ち着いた雰囲気が始まりました。受賞研究の発表になると、各部門の4等賞から順に名前が呼ばれていきます。

緊張して画面を見ていると環境工程科部門の発表が始まり、3等賞で「From Japan!!」と呼ばれました。会場で台湾のチームが表彰を受けている姿を見るとだんだんと受賞した嬉しさがこみ上げてきて、無事賞をとることが出来て安心しました。しかし、外国チームの姿はなく、昨年の授賞式で海外の生徒と「おめでとう！」と言い合って肩を組み、写真撮影をしたのを思い出して少し寂しさを感じました。出来るならばぜひ現地で海外の生徒と交流を行いたかったと強く思います。

●オンラインで工夫したことや大変だったことは

オンライン大会の中で大変だったことは、研究発表の際に相手に内容が伝わりづらいという点です。実際に会場に行く発表とは違い、身振りや手ぶりが中々伝わらず、自分の思いを伝えることに苦労しました。また、スライドは1枚ずつしか見ることが出来ない為、ポスター発表と違って画面に映せる情報が少なく、スライド移動にもたもたしていると相手にいい印象を与えないことなど、事前の準備がいつも以上に大変でした。

●参加した感想や今後の目標

今回、オンラインという形ではありましたが、このTISF2021に参加したことはとても良い経験になりました。先輩方から約10年間続くこの藻類を活用して汚染水処理を目指す研究を世界に少しでも発信出来たのではないかと感じます。しかし、まだまだ福島の問題は残っているためこれからも研究に励み、研究を通しての情報の発信や問題の解決に取り組んでいきたいと考えました。

また、まだまだ自分の英語の聞き取る力、話す力が足りていないことを実感し、国際化が進むといわれている将来にむけても、大学進学後も英語の勉強に力を入れていきたいと思います。今回はこのような貴重な機会を用意していただき、本当にありがとうございました。